

～ 学校運営協議会メッセージ～

木城の子供たちに、『心も体もたくましい人間に育ってほしい。』 『体力』と『耐力』を育むために、私たちは自力登校(徒歩・自転車)を応援します。

子供の頃の登下校のことを覚えていらっしゃいますか・・・。班長のお兄さんお姉さんに連れられて、列をつくって黙々と学校まで通いました。雨が降れば傘を差し、時には雨靴を履き、それでも濡れることがありました。暑い日も寒い日も、毎日毎日、自分の足で歩いて学校に通いました。中学生になると自転車通学となりました。雨の日は合羽を羽織り、汗で蒸れて合羽がピタッと肌にまとわりつく不快感を覚えています。学校帰りも歩いて（自転車で）帰りました。道すがら、四季折々の草花や虫を見つけて遊んだり、小石を蹴飛ばして叱られたり、友達同士、たわいもない会話を楽しんだり、じゃれ合いながら、たまにけんかもありました。距離が長ければ「何でうちはこうも遠いのだ」と嘆き、それでも足が速いのは、毎日歩くことで鍛えられたからだと思うこともあり、友達と走って競争して帰ったこともあります。思い出と呼ぶにはあまりにも些細で、それでも、私たち大人の誰もが経験した学校の行き帰りの思い出です。・・・今の子供たちはいかがでしょうか。

時代の流れなのかもしれません、地域を問わず、車で登校する子供たちが増えているように感じます。特に雨の日は、ここ木城でも車での送迎が多く、傘を差して歩いている子供はまばらで、小さい子が一人で歩いていたりして、登校班は成り立っているのだろうかと心配してしまいます。合羽姿の自転車通学生も数えるほどです。小雨の日、そして晴れている日でさえ、車で登校する子供たちがいて、それが日常になってしまった近年の朝の光景に、私たちは違和感と危惧を抱いています。

人間なら誰しも、楽な方へ、簡単な方へ、便利な方へと傾くものです。そして一般論ですが、私たち大人は子供のことを思うあまり、嫌がること、困難なこと、不快に思うこと、不便なことを遠ざけてしまう傾向があることは否めません。その結果、子供はちょっとしたことで嫌がったり、諦めたり、わがままや不平不満を言ったり、好き放題やったり言ったり、親として困った経験も少なからずあるのではないでしょうか。

子供たちが生きる未来社会は、先行きの見えない「予測困難な時代」だと言われています。子供たちに、そういう未来を主体的に切り拓く、「生きる力」を育みたい。具体的には、体力はもちろん、我慢強さや辛抱強さ、粘り強さといった耐性を培いたい。親や祖父母、先生方、地域、皆さんで、気持ちを同じくして手を携え、できることからやっていきたい。・・・学校運営協議会では様々な課題の解決策を話し合う中で、その一つの方策として、今回、皆様に表題のメッセージをお伝えすることいたしました。まずは、皆様と課題を共有した上で、子供たちの自力登校を応援し、心も体も「たくましい」人間に育ってほしいと願っています。

もちろん、体調不良や怪我で歩けなかったり、バス通学も含め自宅が遠かったり、身体的な理由などで自力登校そのものが困難なお子さんもいます。大雨や雷の時など、車での送迎がやむを得ない場合もあります。優先されるべきは「子供たちの命を守ること」そして「安心・安全な登下校の対策」です。学校や保護者（PTA）は、交通安全指導や登校班、自転車通学の指導を、そして地域や各機関が連携し、引き続き、毎日の登下校の安全確保に資する取組に向けて力を合わせていきましょう。

まずはご家庭、ご親族で、このメッセージを話題に会話をしたいと思います。学校では、先生方、そして学級や学年、児童生徒会で子供たち自身が、そして、保護者会やPTA役員会の皆様で話をする機会を設けてください。

木城の子供たちの明るい未来を、関わる全ての皆さんで共に考えてまいりましょう。